

「史跡筑豊炭田遺跡群保存活用計画―旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所及び救護練習所模擬坑道編一」に対する意見と市の考え方

計画に対する意見	市の考え方
<p>65 ページ旧直方会議所等の活用について</p> <p>石炭や炭鉱について「石炭」をテーマに観光客を呼ぶことは極めて難しいと考える。石炭記念館に足を運ぶことが重要である。</p> <p>ふれあい動物園を復活させたり、花火大会や五日市とも連携してお祭り広場をつくる。巨大鍋を作って雑煮大会を開催したい。</p>	<p>市教育委員会としては、石炭産業は負の遺産ではなく、日本の近代化を支えた郷土の誇りある歴史として皆様に知っていただきたいと考えております。</p> <p>また、近年の石炭記念館来館者数は昨今来館者が年間1万人前後で推移しており、少し前に比べると増えております。今後は石炭に興味がない方々へ来ていただくために、様々な活用方法を検討していきたいと考えております。花火大会や五日市等との連携は、商工観光所管課や観光物産振興協会等と調整をとりながら検討していきたいと考えております。多賀公園の大規模な改装計画は、多賀公園の敷地を管理している都市計画管理部門と調整を図りながらどのような活用が良いのか検討を重ねてまいりたいと考えております。</p>
<p>68 ページ</p> <p>質問 市中心部と石炭記念館への往來を促進するために跨線橋にエスカレーターを設置できないだろうか？</p>	<p>市中心部から石炭記念館へのルートの整備は、市教育委員会としても来客数の増加や市街地活性化の観点から非常に重要であると認識しております。また、直方駅から石炭記念館への交通が不便であるといった声も認識しており、本活用計画内の課題として取り上げているところです。</p> <p>エスカレーターの設置は、市の財政状況を見て適切な判断を行わなければならないと考えてはおりますが、今後</p>

70 ページ

旧直方会議所等の運営・体制について

学芸員を2名以上配置すべき

石炭記念館へ一人でも多くの方が気軽に来ていただけるように整備、施策を考えていきたいと考えております。

現在の石炭記念館は5名の職員体制のシフト制で運営しております。しかしながら、学芸員資格を持った職員は一人もいないのが現状です。

国史跡となった今後は、市教育委員会に所属する学芸員がこれまで以上に頻繁に石炭記念館と連携をとり、史跡や文化財が滅失することがないように、国史跡の整備等について邁進していく所存でございます。